

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

当社グループを取り巻く事業環境につきましては、欧州債務危機やそれに伴う世界景気の後退懸念、USドルやユーロに対する円高の長期化など先行きの不透明感は増大しているものと認識しています。一方、第3四半期連結累計期間の当社グループの業績は、東日本大震災やタイ大規模洪水の影響を受けながらも概ね順調に進捗していることを踏まえ、平成23年10月28日に発表しました通期業績予想を据え置くことといたしました。

なお、第4四半期の為替レートにつきましては、前回予想時からユーロを5円円高に見直し、「1USドル=78円、1ユーロ=100円」と想定しております。

※上記業績予想は、本資料の発表日現在における将来に関する前提・見通し・計画に基づく予想であり、リスクや不確定要素を含んだものです。実際の業績は当社を取り巻く経済情勢、市場の動向、為替レートの変動など様々な重要な要素により、これら業績予想とは大きく異なる可能性があります。

- 定性的情報における記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

2. サマリー情報（その他）に関する事項

(1) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(税金費用の計算)

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積もり、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲の変更)

前連結会計年度の第4四半期連結会計期間より、現金同等物に含める短期投資の範囲を、取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資から、取得日から1年以内に償還期限の到来する短期投資に変更したため、前第3四半期連結累計期間と当第3四半期連結累計期間で資金の範囲が異なっております。

この結果、前第3四半期連結累計期間は、変更後の方法によった場合と比べて、現金及び現金同等物の四半期末残高が、442百万円少なく計上されております。